

「脱炭素かまくら市民会議」第1回 会議録

開催日時：2024年10月19日(土) 13:00~17:00

開催場所：湘南鎌倉医療大学3階(講義室3)

主催：脱炭素かまくら市民会議実行委員会

参加市民：41名(欠席者:5名)

実行委員会委員：氏川、石野、稲田、千田、平野、藤島、堀田

オリエンテーション説明：稲田

情報提供者(専門家)：亀山(東京大学大学院教授)、浦山(鎌倉市)、大塚(東京大学特任研究員)

脱炭素アクション説明：柳下

メインファシリテーター(全体進行)：玄道

グループファシリテーター：鈴木秀顕、鈴木優子、平野、山内、朝尾、川瀬、東樹、原田、山口、錦織、川本、河合、齋藤

記録：進藤

事務局スタッフ：柳下、奥田、三河、山本

現地補助者：植木、表、弘茂、富山

傍聴者：10名

1. 目標(ゴール)

➤ アウトプット(市民会議の成果物・成果目標)

「脱炭素アクション」についてのチャレンジ計画を立てる。

➤ アウトカム(市民会議終了後の状態)

- ・「脱炭素かまくら市民会議」の目的・進め方・ゴールを理解し、第2回以降の参加が楽しみになっている。
- ・気候変動、脱炭素の基礎を理解できている。
- ・第2回までに参加市民に脱炭素アクションを実施してもらい、その結果を記入して事務局に報告してもらう。

2. 実施概要

(タイムスケジュール)

時刻	内容
13:00	開会挨拶・オリエンテーション・ウォーミングアップ
13:55	休憩
14:05	情報提供1：気候変動と脱炭素の基礎知識（亀山康子） 情報提供2：鎌倉市における脱炭素に向けた取り組みについて（浦山友晃） 情報提供3：鎌倉市の地域特性に関する基礎情報（大塚彩美）
14:50	グループワーク：発見だったこと、特に大事だったこと

15:15	情報提供(1~3)に関する質疑応答
15:35	休憩
15:50	新しいグループ(地区別)で自己紹介
16:00	解説:脱炭素アクションに取り組んでみる(柳下正治)
16:25	グループワーク:脱炭素アクション実施の計画を立てる
16:55	クロージング
17:00	終了

2-1. 開会挨拶等

(1) 開会挨拶

① 氏川恵次(実行委員会委員長(横浜国立大学大学院教授))

日本各地で行われるようになっていく気候市民会議の流れを受けて、脱炭素かまくら市民会議が開催される。鎌倉市民の市民会議への参加意欲が高いと聞いている。参加市民の皆さまには最後まで積極的に脱炭素かまくらづくりを目指して積極的に対話を深めて頂きたい。

② 千田勝一郎(鎌倉市副市長)

鎌倉市のミニパブリックスである参加市民の方々に有意義な議論をして頂きたい、鎌倉の未来に繋がる会議であってほしい。

(2) オリエンテーション(稲田素子: 実行委員会委員((一社)環境政策対話研究所理事))

脱炭素かまくら市民会議について、その背景、会議目的、成果物(市民の意見など)、実施体制、参加市民の選定と構成、全体スケジュールなどに関する説明がなされた。

(3) ウォーミングアップ

全体ファシリテーターの玄道優子氏の進行によりウォーミングアップを行い、グループごとに鎌倉市の地図上の自分の住んでいるところにシールを貼ったり、「鎌倉市の好きなところ」を地図上に貼り、各グループ内で自己紹介を行った。また、気候変動への関心度、気候変動・脱炭素社会について知りたいこと、気になること出し合い、グループで共有した。

2-2. 情報提供

(1) 情報提供Ⅰ: 気候変動と脱炭素の基礎知識(亀山康子: 東京大学大学院教授)

気候変動のメカニズムをわかりやすく説明した上で、現在も温室効果ガス(GHG)排出量の増加、地球平均気温の増加が地球規模で進み、熱中症、集中豪雨等の人間社会への深刻な影響が地球各地で日常的に現われており、GHGの厳しい削減シナリオを追求しなければならない。

緩和策としては、節エネ、行動変容、家の断熱等により活動量を減らすこと、再エネ等の代替エネルギーへの転換、植林、CCS(炭素回収貯留)等による、大気からCO₂を吸収する3種類の対応策がある。

市民は、主権者として自治体・国の意思決定を変えていく、消費者として排出量の少ない製品等を購入していくこと等により、日々の行動を変えることが社会を変え、企業行動を変え、国を変えることにつながる。

(2) 情報提供 2：鎌倉市における脱炭素に向けた取組について(浦山友晃：鎌倉市環境部環境政策課)

鎌倉市として推進している脱炭素社会づくりに向けての施策の概要の説明がなされた。

市としては、地域の CO₂ 排出量に関し、2050年カーボンニュートラルを視野に 2030 年 46%削減を目標としている。

脱炭素に向けた市の施策として、①再エネ100%電気導入、太陽光やEVの導入、照明のLED化等の市役所の率先、②住宅再エネ・省エネ等への補助、③神奈川県事業との連携、④啓発等についての紹介がなされた。

(3) 情報提供3：鎌倉市に関する基礎情報酸素の地域特性(大塚彩美：東京大学未来ビジョン研究センター特任研究員+事務局)

市民会議において鎌倉市の未来の脱炭素社会を考えていくうえで有用となる鎌倉市に関する関連分野の情報が、紹介された。

関連分野としては、鎌倉市の地勢、人口のすう勢等、地域開発の推移、交通に関わる動向、住宅・建築物の動向、太陽光パネルの設置の状況、商業施設の立地状況、宅配サービスの状況、第一次産業(農業・漁業)の実情と地産地消の取組、廃棄物の排出状況、観光などを含む、32頁にわたる情報が提供された。

最後に、これら情報が、今後の市民による脱炭素社会づくりに向けた対話において活用されるよう期待していることが強調された。

(4) グループワーク(情報提供1～3に対する気付きの共有、質問の抽出)・質疑応答

グループワークでは、情報提供1～3について各自が「大切だと気付いたこと」、「脱炭素がまくらに向けて特に大事だと思ったこと」などの感想を付箋に書き出し、グループ内で共有した。その上で、「もっと知りたい」、「分かりづらかったことの再確認」などを出し合い、グループの質問として2つを選んだ。進行は各グループに配属されたグループファシリテーターが担当した。

(5) 情報提供(1～3)に関する質疑応答

質疑応答の詳細は、別資料において紹介する。

2-3 脱炭素アクションの取組みについて

(1) 解説「脱炭素アクションの取り組んでみる」(柳下正治：(一社)環境政策対話研究所代表理事)

参加市民に対して、対話に先立って“脱アクションに取り組む”ことを依頼し、脱炭素アクションに

についての説明を行った。

ライフスタイルと温室効果ガス(CO₂等)の排出の関わりについて説明の後、日常生活・活動の中で脱炭素に向けての取組は広範かつ多数に及ぶが、その中から、実行委員会として特に重点を置くべき10の行動「脱炭素アクション」を絞り込んだ。市民の皆様にはこの10項目の中から2項目について実践をお願いする。

1. 自家用乗用車を電気自動車(EV)に切り替える
2. 都市内又は近傍地への移動には、鉄道・バスなど公共交通機関を使う
3. 日常的な買い物は徒歩・自転車で行く
4. 自宅を断熱リフォームする
5. 自宅の電球をLEDにする
6. 自宅に太陽光パネルを設置する
7. 自宅の電力を再エネの契約に切り替える
8. 旬産旬消・地産地消に配慮された食材を購入する
9. 食品ロスをゼロにする
10. 衣服のリペア、リユース、リメイク、アップサイクルに取り組む

(2)グループワーク：脱炭素アクション実施の計画を立てる

各グループともに、各自10項目の脱炭素アクションに関わる現在の状況に関するアンケートに記入し、グループファシリテーターに提出した上で、各参加者がどの脱炭素アクションに取り組むか検討し、脱炭素アクションの計画(分担)をとり決めた。

第1回終了後の10日間前後：脱炭素アクションの実施(実践、直ちに実践することが困難な項目については実践に向けて関連事項を調べたり、家族と話し合ってみる)

11/5 までに：実践等を行った結果をフィードバックシートに記入し、フォーム入力または郵送で事務局へ送付する。

事務局において脱炭素アクションの取組結果をとりまとめ、その結果を分析整理し、次回第2回市民会議(11月23日)において報告・紹介する。

(9)クロージング

本日の感想と各自が提出することになった脱炭素アクションをグループで共有する。

次回の案内：11月23日(土)13時～17時

- *脱炭素アクションの振り返り
- *地域ごとの課題と可能性について話し合う
- *第3回市民会議で深めるべきテーマを挙げる

2-4 閉会の挨拶：石野耕也(脱炭素かまくら市民会議実行委員会委員)

1日の振り返りを行い、脱炭素アクションの実践に対して改めてお願いをするとともに、今後の市民会議での脱炭素かまくらづくりへの対話への期待を表し、閉会の挨拶とした。